

Strix 9:71-75 (1990)

## 金沢市におけるアカモズの亜種間交雑例

石塚 徹<sup>1</sup>

### はじめに

アカモズ *Lanius cristatus* の一亜種シマアカモズ *L. c. lucionensis* (以下 *L. c. l.*) は、主に中国東部・朝鮮半島などで繁殖し (清棲 1978)、我が国では対馬や舩倉島など日本海側の島嶼で、春の渡りの時期にしばしば観察されるものの、繁殖は九州地方 (1970年以降) が知られているのみである (日本野鳥の会 1980)。

筆者は、1989年8月に石川県金沢市において、数羽の幼鳥を連れたシマアカモズを観察した。今回は、シマアカモズが本州で繁殖した最初の例であると同時に、別亜種アカモズ *L. c. superciliosus* (以下 *L. c. s.*) とつがいをつくっていた興味深い例でもあるので、前後の状況を報告する。

本文に先立ち、再三の御意見・御協力をいただいた金沢大学自然科学研究科の池田善英氏、および公園内での捕獲・標識調査を快く許可して下さった石川県健民公社の方々に感謝申し上げる。

### 観察結果

シマアカモズの親子がみられた場所は、金沢市普正寺町の健民海浜公園内の林 (36°35' N, 136°35' E, 通称「普正寺の森」) である。この公園は、日本海に面した砂丘上に主としてクロマツ *Pinus thunbergii*, ニセアカシア *Robinia pseudoacacia*, エノキ *Celtis sinensis* var. *japonica* の林が広がった50haほどの場所で、留鳥としてシジュウカラ *Parus major*, キジ *Phasianus colchicus*, カルガモ *Anas poecilorhyncha* など15種が、夏鳥としてクロツグミ *Turdus cardis*, カッコウ *Cuculus canorus*, ササゴイ *Butorides striatus* など7種が繁殖している。モズの仲間としては、モズ *Lanius bucephalus*, アカモズ, チゴモズ *L. tigrinus* の3種とも繁殖しており、このうちではアカモズが最も多く、主に林縁に10~15つがいが生息している (以上、石塚 1990)。

シマアカモズを最初に確認したのは8月4日で、幼鳥を6~7羽ともなっていた。このシマアカモズ (Fig. 1) は体色から雄と判断された。幼鳥はすでに尾羽も生えそろっており、巣立ち後少なくとも一週間は経っているものと思われたが、しきりに親鳥のシマアカモズに餌乞いをしており、親鳥はこれにコガネムシ類、カマキリ幼虫などを給餌していた。幼鳥たちが親鳥を追い回しているため、観察期間中はほぼ一日親子でみられた。

1990年10月15日受理

1. 金沢大学理学部生態学研究室, 〒920 石川県金沢市丸の内1-1

現住所: 〒249 神奈川県逗子市逗子4-5-25

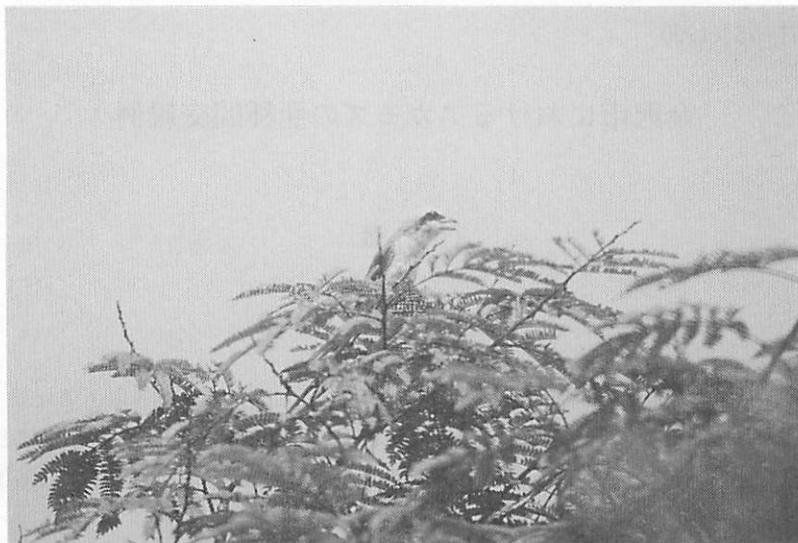


Fig. 1. The male Brown Shrike *Lanius cristatus lucionensis* observed in Kanazawa in August 1989.

8月5日から6日にかけて、これらのうち6羽の幼鳥をかすみ網によって捕獲し、標識放鳥した。雄親であるシマアカモズは、幼鳥が捕獲されたさい、網場の上に来て警戒・威嚇するなどしたが、結局捕獲には至らなかった。

一方、比較的目立たないながらも家族群の中に観察され、また幼鳥と同時に捕獲もされた亜種アカモズ雌が、シマアカモズのつがい相手と考えられた。幼鳥の頭部の羽毛は、後に述べるように、両亜種の色彩的特徴を併せもっていた。

発見当初（8月4日～8日）の家族群の行動圏は、森林の南西側に半島状に派生した土手上的クロマツ林（樹高約15m）と、その両側の草地とからなっていた。この草地にもクロマツやネムノキ *Albizia julibrissin* の若木が点在している。当初の5日間の観察では、行動圏はおよそ一定の約0.9haに限られており、この面積はこれまでに報告されているアカモズの家族群の行動圏（倉沢 1975, 中村 1985）と大差なかった。また、周辺で繁殖した他のアカモズやモズの行動圏と接したり、一部を重複し合ったりしていたが、発見からおおよそ10日の後にはこのシマアカモズの家族群は姿を消し、代わって別のアカモズの家族群の進入がみられた。この後、シマアカモズおよびその家族の個体が周辺で観察されることはなかった。倉沢（1975）も、巣立ち後20日目に、アカモズの家族群が繁殖地を去った例を示している。

捕獲した幼鳥6羽については、各部の測定を行ない、体色をチェックした。比較のために別のアカモズの幼鳥（*L. c. s.* × *L. c. s.* ; いずれも日齢は不明であるが、羽毛はのび切っていた）も7羽を捕獲し、測定などを行なった。

この結果、各部の測定値では両者の間に尾羽以外に有意な差はなかった（Table 1）。尾羽については、まだ发育段階であった可能性も残る。一方、体羽の色彩に関しては、若干の差異がみられた。すなわち、*L. c. l.* × *L. c. s.* の幼鳥の頭部は、黄褐色味のある灰色に黒褐色の横縞の入る羽毛が大部分を占め、これに赤褐色の羽毛が少々混じる程度であっ

Table 1. Comparison of morphological measurements of juveniles between two subspecies of Brown Shrikes, *Lanius cristatus lucionensis* (*L.c.l.*) and *L. c. superciliosus* (*L.c.s.*).

	Boby length (mm)					Boby weight	
	Total	Wing span	Wing	Tail	Tarsus	Culmen	(g)
<i>L.c.l.</i> × <i>L.c.s.</i> (n = 6)	195 ± 4.5	263 ± 5.2	85.4 ± 1.86	79.1 ± 3.32	23.6 ± 0.74	15.3 ± 0.26	33.3 ± 2.77
<i>L.c.s.</i> × <i>L.c.s.</i> (n = 7)	197 ± 2.7	273 ± 9.8	86.7 ± 1.95	83.6 ± 1.91	23.6 ± 0.75	15.3 ± 0.49	31.1 ± 1.80
<i>F</i> *	1.14	1.73	1.49	9.59	0.02	0.05	2.71
<i>P</i>	0.308	0.218	0.248	0.010	0.888	0.835	0.131

\* *F*-検定

た (Fig. 2) のに対し, *L. c. s.* × *L. c. s.* の幼鳥の頭部は, 黒色の横縞のある赤褐色の羽毛が多く, 個体によって灰色味のあるタイプの羽毛が多少混じる程度であった (Fig. 3). 背面の色彩は, 前者はくすんだ褐色の羽毛を主体とし, 灰色で横縞の入る羽毛がかなり混じることがあったが, 後者は明らかに赤褐色味の強い羽毛のみからなっていた.

今回の記録はあくまでも幼羽の段階のものであり, この後まもなくシマアカモズの家族群がみられなくなったため, 第1回冬羽に換羽してからの色彩の差については言及し得ない. しかし, 上記のような特徴のために, 遠くから見ると前者の幼鳥の頭部は一様に灰色にみえ, 雄親に酷似していた.

なお, 翌1990年の繁殖期には, 同公園内にシマアカモズおよびその家族であったアカモズが渡来したかどうかは確認できなかった.



Fig. 2. Heads of juveniles. *Lanius cristatus lucionensis* × *L. c. superciliosus*.

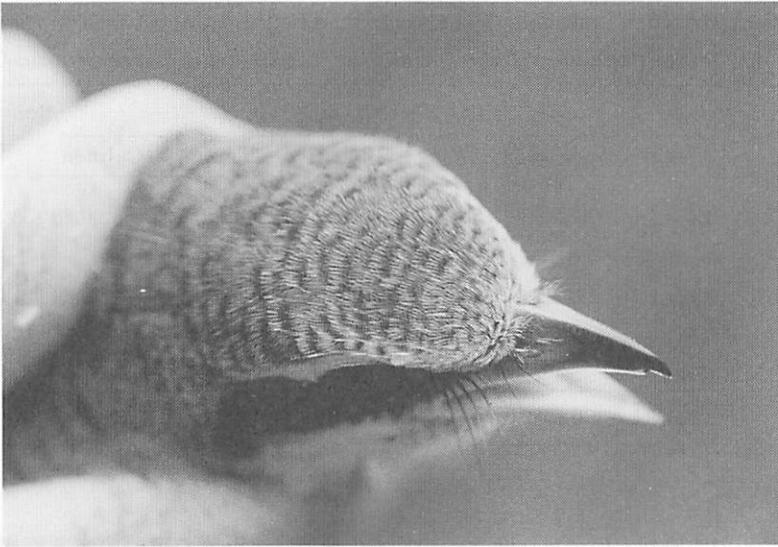


Fig. 3. Heads of juveniles: *L. c. superciliosus* × *L. c. superciliosus*.

#### 考 察

石川県内では、シマアカモズは輪島市沖の舳倉島や七ツ島で5月ごろよくみられる（日本野鳥の会石川支部 1979）が、そのほかでは記録がなかった。しかし、普正寺の森では、ヤツガシラ *Upupa epops*, ムギマキ *Ficedula mugimaki* などが毎年みられるほか、近年だけでもカラアカハラ *Turdus hortulorum*, カラフトムジセッカ *Phylloscopus schwarzi*, ヤマショウビン *Halcyon coromanda*（日本野鳥の会石川支部 1990）、ハシブトアカゲラ *Picoides major brevirostris*（石塚 1990）など、日本海上が渡りのコースの一部とみられる大陸系の渡り鳥の記録が少なくない。こうしたことから、シマアカモズが渡りの途中に出現し、アカモズの繁殖個体群に入りこんだとしても、決して意外なこととはいえない。同年4月上旬にも、今回の場所からおよそ700m北に離れた同公園内の別の地点で、シマアカモズらしき個体が1羽、他の探鳥者によって観察されている。しかし、この個体がシマアカモズであったとしても、一時的な目撃例であったことから、渡り途中の通過個体と考えた方がむしろ自然であろう。

一方、亜種アカモズの繁殖分布は日本列島に限られ、本州と九州の間ではっきりとシマアカモズの分布域と隔てられており、さらに本州西部ではアカモズは少ないとされている（日本野鳥の会 1980）。しかし、渡りの時期にはそのコースの一部で両亜種が入り混じる訳であり、九州や本州西部では、すでに亜種間交雑の起きていることも考えられないことではない。

今回、本州のアカモズの個体群内に姿を現し繁殖に加わったシマアカモズが、九州で繁殖する個体群由来のものか、あるいは大陸から迷いぎみに渡来したものかは判断できなかったが、ヒメアマツバメ *Apus affinis*, イワミセキレイ *Dendronanthus indicus*（日本野鳥の会 1980）、ホオジロハクセキレイ *Motacilla alba leucopsis*（中村 1987）など、西日本から分布を広げた種・亜種もあることから、シマアカモズが西日本や日本海側を中心に進出してくる可能性も考えられ、今後の動向に注目したい。

## 要 約

1989年8月に、石川県金沢市普正寺町の健民海浜公園のクロマツ林の縁で、シマアカモズ雄、アカモズ雌、および幼鳥6~7羽からなる家族群を観察した。シマアカモズの本州での繁殖は初記録である。また、アカモズの亜種間交雑のはじめての例である。捕獲し標識放鳥した幼鳥の頭部には、灰色味の強い羽毛に赤色味の強い羽毛が混在しており、亜種間交雑の結果と思われた。シマアカモズの分布拡大の可能性について考察した。

## 引用文献

- 石塚徹. 1990. 海岸の砂丘林におけるクロツグミの繁殖生態. 金沢大学理学修士論文, 金沢.
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版 日本鳥類大図鑑 第I巻. 講談社, 東京.
- 倉沢庸子. 1975. 鋭い攻撃で守る〈アカモズ〉. 野鳥の生活 (羽田健三監修), pp. 142-145. 築地書館, 東京.
- 中村一恵. 1987. ハクセキレイとセグロセキレイの分布総説. 日本の生物 5: 44-51.
- 中村雅彦. 1985. 異種間のなわばり〈モズとアカモズ〉. 続々野鳥の生活 (羽田健三監修), pp. 129-133. 築地書館, 東京.
- 日本野鳥の会. 1980. 鳥類繁殖地区調査1978. 日本野鳥の会, 東京.
- 日本野鳥の会石川支部. 1979. 舩倉島の鳥. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.
- 日本野鳥の会石川支部. 1990. 石川の野鳥 10周年記念号. 日本野鳥の会石川支部, 金沢.

A case of hybridization in Brown Shrike subspecies,  
*Lanius cristatus lucionensis* and *L. c. superciliosus* in Kanazawa

Toru Ishizuka<sup>1</sup>

A pair of male Philippine Brown Shrike *L. cristatus lucionensis* and female Japanese Brown Shrike *L. c. superciliosus* with 6-7 fledglings were observed in Kanazawa, Ishikawa Prefecture, in August 1989. Plumage of the juveniles had the colors of both subspecies. This is the first breeding record of the Philippine Brown Shrike in Honshu, and the first case of hybridization in Brown Shrike subspecies.

1. Laboratory of Ecology, Faculty of Science, Kanazawa University. 1-1 Marunouchi, Kanazawa, Ishikawa 920

Present adress: 4-5-25 Zushi, Zushi, Kanagawa 249